

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部5年

氏名: 藤本真理

授業科目名	海外歯科研修プログラムV(インドネシア)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>インドネシアのアイランガ大学で、歯科学についての座学、実習への参加、治療の見学、現地の小学校訪問での文化交流、ソロでのボランティアイベントへの参加。</p> <p>座学、実習、治療見学では、既習の内容がほとんどであった。日本と術式が似ているものが多く、理解することができた。日本との相違点としてはX線写真である。日本では、X線写真の現像をデジタル方式で行う場合が多く、アナログ方式の術式やアナログ方式で出力された写真を見たことがなかった。実際に自分で現像を行うことでアナログとデジタルの長所と短所を学ぶことができた。</p> <p>小学校訪問、ボランティアイベントでは、インドネシアの民族衣装や伝統的な踊りを見ることができた。日本文化がインドネシアに広く知れ渡っていることも知ることができた。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>学生が患者の治療をしているところを見学した。その時、学生が治療している様子の写真や動画をスマホで撮っていることに驚いた。日本ではプライバシーなどを配慮して、写真を撮る状況は限られている。学生たちはその動画を共有したり見返して学習するようだった。患者も写真を取られることに不快感も抱かないようで協力的だった。また、治療後に治療前後の写真を見せて患者に説明をしている事もあった。患者も何が行われたのか知ることができるので安心するのではないかと思った。教科書や参考書で術式を学ぶ事はできるが、実際の動画を何度も見返すことができることは知識や技術向上に重要だと思った。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>研修期間中に大学関係者をはじめたくさんのインドネシア人に出会ったが、全員に共通することはどんなときも笑顔であるということだ。最終日に、「なぜインドネシア人はみんな笑顔なのか？」とタクシーの運転手に聞いた。「笑顔でいることで健康で元気で過ごせるから。怒らずに笑顔でいると顔に皺もできないよ～」と笑っていた。</p> <p>研修前は、定刻に搭乗できない飛行機にイライラしたし、不安で仕方なかった。しかし、飛行機の遅延も当たり前のように受け入れて、支払いの際に1円足りなくても許されるインドネシアの人々の性格を目の当たりにして考え方が変わった。どんなことでもなんとかなるという気持ちが大きくなり、小さなことも気にならないようになった気がする。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>小学校訪問での文化交流では、日本に興味を持っている子どもたちが多く、日本の文化が広く知られていることを強く実感した。しかし、日本について質問されたときにしっかり答えられなかった。原因としては、日本文化を理解していないことと英語力がなかったことだと考える。地域を発展させるとき、外から人を呼び込むことは重要な要項だと思う。そのためには、地域について理解して説明することが必要だと思う。また、海外からの人には英語で説明する必要がある。今回の研修では、どんなときも自分の英語力の低さに悩んだ。これからは、文法や長文といった英語ではなく、英会話に力を入れようと思う。英語で自分の意見を相手に伝えられるようになることが私の目標である。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部5年

氏名: 石川 琴美

授業科目名	海外歯科研修プログラムV(インドネシア)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>私の学習成果はインドネシアの医療を知ることで歯科医療の多様性について理解したことです。特にインドネシアでは診療にスマートフォンを用いるのが一般的でした。これは一番大きな衝撃でした。患者さんの前でスマートフォンを出すことは診療の妨げであり日本では良しとされない風潮があると思います。インドネシアでは診療中にスマートフォンで写真を撮ったり、アシスタントが口腔内をスマートフォンのライトで照らしたり、撮った写真を外部の人に送信してチャットをして相談をしたりしていました。正直これは効率が良い方法だと感じました。またインドネシアではレントゲン写真もデジタルでなくアナログでした。デジタルよりも画像は鮮明で口の構造がよくわかりました。全てデジタルがまさっているわけでないことを認識することができました。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>日本は何をするにも大変恵まれた国であることに気づくことができました。インドネシアではトイレトペーパーを水に流すことができなかつたり、歩道がなく信号も絶対に守られてるものではなかつたり、日本では考えられないことが多々ありました。ストレスに感じることもありましたが、徐々にそのことに慣れていったのは不思議でした。生活にこのような大きな大きな差があるにもかかわらず、人の暖かさは日本で生活しているときと変わらないかそれ以上でした。言葉の壁がありながらも、積極的に話しかけてくださり、片言の英語でも親切に対応してくださるばかりでした。インドネシアで出会った方がたくさん助けてくださったことがとても幸せで、私も誰に対しても親切でありたいと考えるようになりました。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>最も成長したことは何事も挑戦して後悔しないようにしたいと感じられるようになったことです。自分の負担にならないことやリスクを負わないことを選ぶことが多かったのですが、いまは勇気を出して自分の理想を叶えたいと感じています。海外研修で死ぬまでに一度は見てみたい美しい景色や想像以上の人間の多様性を目のまえにして、自分の視野の狭さを痛感しました。新しいことに挑戦することは見たことがない景色に出会うことにつながりますし、とてもわくわくすることができます。このように挑戦する意義を見出せた海外研修はとてもいい機会となりました。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>私は日本での当たり前前の幸せをあたりまえのことではなかつたんだと感じて、いまの現状に妥協するのではなく厳しい環境でたくましく生きている人のように一生懸命何事にも挑めるようにしたいです。日本はあらゆる面で高い基準にいますが、高い基準にあることにより、そこまで努力せずともある程度の地位や恩恵を受けられる社会ではないかなと感じました。幸せなことでもあり、一方で自分の成長や結果を生み出すにはあまり適していない環境なのかもしれません。幸せな環境を活かすも殺すも自分次第なので、私はいかせるように過ごしていきたいです。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部5年

氏名: 廣田 佳穂

授業科目名	海外歯科研修プログラムV(カナダ)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>・現地歯学部4年生(最終学年)の臨床実習の見学…現地4年はOral Health Centerという施設で、一人ひとりが患者さんを担当し、自身の力で治療をしていた。その様子を見学し、わからない点や日本の歯科治療あるいは鹿児島大学歯学部学生による臨床実習との異なる点を、学生あるいはライター長の先生方に質問した。</p> <p>・現地歯学部3年生の実習授業の見学…実習室での実習の様子を見学。使用機材や実習の進め方・教え方の違いをみた。</p> <p>・ポスターセッション…留学生(私を含む2人)による、現地学生・先生方へのポスターセッションを行なった。留学生各々が今までに行ってきた研究内容について、PowerPointやポスターを用いて発表を行った。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>・カナダで生活してみて最も感じたことは、「みんな、自分自身に自信を持っており、いい意味でも悪い意味でも自分のやりたいことをとことんやっている」ということだ。例えば歯学部4年生の臨床実習を見学している時に、とある学生が患者さんに対し「大丈夫、私を信じて。」と言っていた。日本だと、学生時代からこんな言葉を患者さんにかけてあげるのはなかなか無い。また、街を歩いていると、周りの目を気にせず、自分の着たい服を着て、食べたいものを食べて、人生を楽しんでいるように見えた。日本だと周囲からの視線を気にしすぎて、自分の殻に閉じこもってしまう。時にマイナスに転じてしまうことはあると思うが、ある程度なら自分のやりたいことをとことんやることは、生きやすいと思うし、何より楽しいんだろうな、と感じた。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>・一番の変化は、「自分の殻に閉じこもりすぎないようにしよう」という考え方を得られた、ということだ。日本では、相手の感情を「察する」という文化がかなり強いが、外国では自分の口で「私は～がしたい」とはっきり言わないと相手にはわかってもらえない。さらに、何も言わずにいると「この人は意志が弱いな」とか「何がしたいのか分からない」というように思われてしまう。例え言葉の壁があったとしても、なんとか伝えようとしているというのが相手に伝われば、相手は優しく聞いてくれたり待ってくれたりする。実際今回の留学中に現地の先生に、私がやりたいことや興味のあることを伝えると、予定にはなかった診療科見学や経験を提案してくださり、とても良い時間を送ることができた。勉強も兼ねて、相手にとことん質問しとことん意見を伝えることが、外国で、ひいては日本で、良い経験をし成長していくためには必要だと思った。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>・将来の目標は、海外留学をし、その後できれば外国で歯科医師をやっていくことだ。今回の留学を通して日本と海外との歯科治療を比較した時に、それぞれが優れている点、劣っている点を見つけることができた。日本でしっかり歯学部を卒業し十分な知識を身につけた後に、他の国で再度歯科を学び、それぞれの良いところをたくさん吸収し、ワールドワイドな考え方や技術を持ち合わせた歯科医師になりたいと思った。そして、そうすることで培ったものを患者さんに還元してあげたいと思った。なぜ活躍の場を海外にしたいのかというと、今回の留学で見たことや今までにいろいろな先生方から聞いた話からすると、技術面では日本の方が優れている点が多いということを感じたため、その技術を海外に伝えたいと思ったからだ。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部歯学科5年

氏名: 東元 郁菜子

授業科目名	海外歯科研修プログラムV(マレーシア)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>マラヤ大学歯学部では学生が希望する科をメインに見学することが出来ました。私は口腔顎顔面外科に興味がありましたので、月曜日は外来、水・木・金曜日は手術室にて見学をさせていただきました。特に手術中は常に先生方の手元が見える位置に立つことができ、患者さんの現病歴、手術の手順を丁寧に教えてくださいました。事前に勉強していた歯科英語では到底理解しきれない程でしたが、鹿児島大学で実際に見学した症例と比較しながら質問をしていくと、より平易な英語でもう一度説明してくださり、疾患のさらなる理解へとつなげることが出来ました。特に下顎骨前方移動の手術方法の選択基準について学べたことが印象的です。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>マレーシアはマレー系、インド系、中国系の方々が住む多民族国家です。それ故言語は母国語としてマレー語がありますが、職種に関わらず英語を話せることがごく一般的でした。また宗教も多種多様であり、国民の多くを占めるイスラム教、そして仏教、キリスト教が共存している世界でした。私個人の意見ですが、日本人は根本的に無宗教でありつつも、年行事やライフイベントに沿って様々な対象に敬意を払い、拝む民族であるように思います。普段の生活の一つ一つが宗教の影響を受けた暮らしをされる方々の軸の偉大さに畏敬の念を感じずにはいられませんでした。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>以前は社会的でなく、話は聞く側、リスクを考えてあと一步を踏み出せない人間でした。その上たどたどしい英語と困った私に対してマレーシアの方々は温かく、毎日「今日は元気ですか？何を経験しましたか？」と気にかけて、ディナーにも招待いただきました。その優しさに応えるため、ありったけの感謝の気持ちを「伝える」よう努めました。お会いした全ての方にお礼を言い、メールを送り、気付けば「お会いできて、マレーシアに来て本当に良かった。」とストレートに気持ちを伝えられるようになっていました。戻ってからも、丁度マラヤ大学から留学生がいらしていると聞き自然とご挨拶に行っていました。伝える力、行動力が身に付いた様に思います。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>鹿児島県は医療機関から離れた島や地域が多く、十分な医療を届けられていない現実があります。一方マレーシアでは政府により国民全員が平等な医療を受けられるようクリニックを点在させ、費用もほとんどかからないシステムがあると聞きました。参考になる部分もありますが、人口バランスや保険制度の違いによりそのまま取り入れるのは非常に難しいことも事実です。今後も多くの国の医療制度を学び、現地の人の話を聞き、そして医療を届けたい。それ以前に医療の存在・予防歯科の重要性を知ってもらえるような取り組み、システム構築に携わる仕事に就きたいと考えています。</p>	